

中山道間の宿 新加納

まちづくり会かわら版

第1号

平成23年
10月1日
発行

中山道間の宿 新加納まちづくり会発足

ご挨拶 会長 小島秀俊

平成二十二年年度から各務原市は新加納地区内を重点風景地区に指定、「中山道新加納立場地区」として歴史的な趣と調和する町並みの保全と再生を進めています。また、少林寺南側の鍋屋バイテック工場周辺の土地区画整理事業が始まり、江戸時代の旗本坪内氏陣屋跡の発掘調査が市教育委員会文化財課により行われています。

このような時に私共地域住民も主体的に参加してまちづくりを進めるとともに、郷土に理解と愛着を高めて、住みよいまちづくりの基盤になる組織をつくろうと「中山道間の宿 新加納まちづくり会」の設立を目指しました。

その結果、新加納地区連合自治会の協力を得、町内有志五十人の参加により「まちづくり会」が平成二十三年七月三日（日）新加納ふれあいセンターにおける「歴史とまちづくりの集い」を機に発足することができました。皆様には今後のご支援、ご協力をお願いします。

歴史とまちづくりの集い

七月三日（日）ふれあいセンターで

「新加納まちづくり会」発足を記念して新加納ふれあいセンター一階集会所で開催されました。会員のほか、森市長、伊藤、松岡両県会議員などの来賓、鶴沼宿のボランティアメンバー、町外の歴史愛好家などの出席があり盛会でした。

今尾恒裕名誉会長の開会挨拶、小島秀俊会長による経過報告と活動方針の説明があり、来賓代表の森市長から祝辞をいただきました。この後、各務原市歴史民俗資料館の西村勝広係長から「新加納の歴史再発見―新加納らしさを求めて」、続いて市都市計画課服部参事の「景観とまちづくり」と題する講話が共にスライドを用いてありました。

「まちづくり会」の組織は名誉会長、会長、今尾英文副会長の下、総務（会計）、児童、歴史、まちづくりの各担当を設け、毎月第二月曜日夜ふれあいセンター二階研修室で会合を持ち活動しています。

小島秀俊会長の経過報告

今尾恒裕名誉会長の開会挨拶



中山道太田宿などの見学会

十月二十八日（金）に実施

「会」活動の手始めとして『中山道「鶴沼宿・太田宿・御嵩宿」歴史の道見学会』を十月二十八日（金）に行います。九時四十五分集合、十時出発、市役所のバスを利用して東へ向かいます。

鶴沼宿は中山道六十九次の五十二宿、市が整備に力を入れ、旧郵便局を修復した町屋会館、新築復元した脇本陣、江戸時代の旅籠の面影を残す梅田家などがあり、観光客も増えています。案内などを行うボランティアが活動しています。

太田宿はJR美濃太田駅から南へ徒歩十分、木曾川に近い本町通の町並みです。旅籠を営んでいた旧小松屋の無料「お休み処」、黒い腰板の酒蔵がある酒造会社、約二百年前の建築で国重要文化財指定の脇本陣林家住宅があり、その隣には観光施設「太田宿中山道会館」。ここには江戸時代の旅を紹介する展示室、物産販売室、食堂（ここで昼食を予定）、広場もあります。

伏見宿を通過して四十九宿御嵩宿は願興寺の門前町でもありました。現在、脇本陣の跡地に往時の宿場や町の産業、文化を紹介する郷土館と図書館を合わせた複合施設があります。参加費は無料、昼食は自己負担です。

読み捨て 新加納まめ歴史事典

制作
まちづくり会
歴史担当

坪内氏は大身の旗本

本家は江戸に屋敷、新加納に陣屋

内分家が前渡、三井、平島に

旗本 江戸時代、將軍直属の武士団のうち、一万石（以上は大名）未満の將軍にお目見（得）できる家格の者で早くから徳川氏に仕えてきた家臣が中心になっています。十八世紀の調査では約五千二百人、百石から五百石までの者が六割でした。全員、江戸市中に屋敷を与えられ居住しましたが、三千石以上の旗本は、所領地に陣屋を置くことが出来ました。役割は、幕府の軍事と行政のさまざまな番役に従事し、幕府を支えました。いわば現在の国家公務員に当たります。

旗本坪内氏 加賀国富樫氏（安宅関守が知られる）の分家筋で戦国時代、現在の川島町あたりを領有、織田信長に重用され、坪内に改めて徳川家康に仕え、関が原の戦い、大阪の陣で鉄砲隊を率いて活躍、新加納をはじめこの地域を所領に与えられ、六千五百三十三石の旗本として明治維新まで続きました。この間、大身の旗本として、坪内一統は、歴代幕府の主要な番役に就いています。本（宗）家と内分家、分家 坪内家初代の利

定は、関が原の戦いの翌年、慶長六（一六〇一）年戦功により当地域に六千五百三十三石の知行所を得ます。このうち次男に前渡、三男に平島、四男に三井のそれぞれ約六百石を与え、残りは本家分にしましたが、公的には分割しておらず、内分家として扱われました。

松倉城跡 坪内氏は織田信長の頃は、今の川島松倉町の一角に城を構え、この一帯を所領としていました。その後秀吉とは不和になり、この地を離れます。松倉城の遺跡ははっきりしませんが、推定地に松倉城の表示板が立てられています。

徳川幕府の朱印 関が原の戦い以後、徳川方で戦功を立て、家康、秀忠から改めて旧来の所領であった新加納、長塚、大野、小佐野、大佐野、下中屋など宗家分の村々や後に内分家、分家に分地したあわせて十四か村を旗本として朱印されました。およそ現在の那加一小学校校区南部、稲羽中学校校区、川島小校区、下羽栗小校区の地域です。

そこでこの所領を治めるための陣屋の場所を各務原台地の端で見通しのよい新加納を選んだと考えられますが、それ以前から織田信長的美濃攻めに従軍するための軍事上の拠点としての砦をここに築いていたのかも知れません。

新加納陣屋 江戸時代の陣屋は、幕府、大名、旗本などが所領を治めるため代官などの役人を任命、勤務、居住させた場所です。今の行政機関といえましょう。付近では、那加西市場町に旗本徳山氏の更木陣屋があり、跡地を市が発掘調査などを基に旗本徳山氏更木陣屋公園として整備しました。

旗本坪内氏の陣屋は、現在の鍋屋バイテックの工場がある一帯と推定されます。設置年代、建物の配置や規模など不明なことが多く、本年、区画整理事業に先立ち、市教育委員会が発掘調査を行い、第一次調査は終わりました。その際、周囲にめぐらした？堀と土塁の一部が明らかに、出土品も少しあり、今後の第二次調査が期待されます。

新加納陣屋に関連する遺物としては、岐阜市前色の上宮寺山門が陣屋門を移築したものといわれます。また、市歴史民俗資料館に、かわらが二枚收藏されています。



上宮寺の山門 たびたび修築され、近年、屋根が葺き替えられ、木造部は朱色（紅殻）に塗られています。

平成23年9月撮影